

平成30年1月16日

平成29年度 第2回学校関係者評価書

南アルプス市立若草小学校
校長 澤登 一浩

〔会議日時〕 平成30年1月15日（月）19:00～20:30

〔会議場所〕 若草小学校 校長室

〔出席者〕

・学校関係者評価委員5名

和田 則之さん（寺部自治会長 ・学校評議員）
村松 秀樹さん（社会教育委員 ・学校評議員）
松田 結香さん（主任児童委員 ・学校評議員）
林 正幸さん（PTA会長 ・学校評議員）
斉藤 泉 さん（PTA副会長 ・学校評議員）

・学校側3名

澤登 一浩（校長） 望月 政幸（教頭） 内藤 大輔（主幹教諭）

1 学校からの説明事項

第2回学校評価、各アンケートの集計結果について

- ①児童アンケート内容及び集計結果・考察・改善策について
- ②保護者アンケート内容（施設）及び集計結果・考察・改善策について
- ③教職員アンケート内容及び集計結果・考察・改善策について

2 意見交換

- (1) いじめについては、高学年になると、親にも先生にも話さなくなるので難しい。学校が相談にのりやすい雰囲気ですぐに対応してくれている。保護者が学校側と連絡を密に取ることがいじめ防止や、早期解決につながる。
- (2) 友だちと遊ぶことも大切、宿題も大切。そのバランスを家庭でも考え、家庭学習を進めていく必要がある。学習意欲を大切にしながら、学校と家庭との連携が今後必要である。
- (3) 夏のラジオ体操は中学生が中心になり、上級生がリーダーシップをとりながら、行っている。また南アルプス市の球技会も若草地区は出ているが、他の地区はあまり参加をしていない。保護者・役員の方も一緒になって行事を盛り上げているので、児童も励みになっている。

(4) 通学の時の心配（安全見守り）

人間関係、あいさつ、横断歩道のわたり方、側溝 →

地区の方々の意見を参考に学校で対処していく。

(5) P T A活動で、見守り隊とバザーの2種類の新しい事業が行え、充実した。

(6) 運動会や学芸発表会など、学校は児童や保護者、地域が楽しみにしている行事を行っていただいていたが大変ありがたい。外国語等入ってきて、授業時数の確保等忙しくなるが、児童の充実感を大切に、工夫しながら、これからも学校行事を充実させてほしい。

(7) 数年前はこの地区の、特に中学校が荒れていたが、今は本当に落ち着いている。小学校から教育が大切。また地域との連携・協力体制が必要。

(8) 昔の子は、目に見えるやんちゃであったが、今の子は何を考えているのかわからない。物や情報があふれている昨今、インターネットやスマホなどに左右されないよう、きちんとした自分をもってもらいたい。ネットはネット、自分は自分というように、親も子どもを教育したい。

平成29年度第2回学校関係者評価委員会では、以上のような意見をいただいた。

第1回学校評価をふまえて、課題をしぼり、その取組と成果を明らかにしたのが第2回学校評価である。学校関係者評価委員の皆さんには、後期までの取組を評価していただくと同時に、来年度に向けての励ましをいただいた。意見を参考にしながら、今後の教育活動をより豊かで実り多いものにしていくことを確認した。

第1回学校評価を通して決めた指導重点とその取り組みの成果

○すべての児童が、学校が楽しいと思えるような学校づくりを進める。

- ・運動会や学芸発表会などの取組を通し、一人一人が生き生きと活躍できる場を作ることができた。
- ・いじめの無い人間関係を構築するために、安心して学べる教育環境づくりに努め、困難さを抱えていた児童に丁寧に寄り添ってきた。その成果が上がってきている。

○P T Aや地域の方々とも協力して、あいさつ運動を進めていく。

- ・わかかさ見守り隊の推進とともに、保護者や地域にあいさつ運動を広げることができた。
- ・児童会を中心に、あいさつの楽しく工夫された学校内でもあいさつ運動が広がった。

○授業中の発言や質問または意見を言う機会を増やし、発表しやすい環境づくりに努める。

- ・校内研究では、各先生の持ち味を活かした研修授業が複数行われ、外部講師等からもよい講評をいただいた。授業の中で、「聴くこと」「話すこと」を重視し「学び合い」の授業がさらに推進された。

○家庭学習を充実させる。

- ・家庭学習強化週間を有効に活用し、子どもたちの習慣化につなげることができた。
- ・学年や学級単位で、家庭学習の内容を工夫し、基礎・基本の定着や、家庭教育の時間の確保を行っていくことができた。

○いじめは絶対に許さないという毅然とした態度で指導にあたる。

- ・普段から学級の子どもの様子に気を配り、Q U検査を活用するなど、いじめの早期発見、早期解決の取組を行い、何か問題があった場合には多くの教師がかかわり指導にあたった。全校職員一丸となった指導、協力体制のもと、いじめにつながる小さな気持ちの荒れを収めていくことができた。
- ・児童会が中心となり「ありがとうの木」や「うれしかったこと」をお昼の放送で流すなど、子どもの視点で、安心して学校生活を送れる取組がなされた。

○施設・設備について適切に対処していく。

- ・安全点検等を適切に行い、すぐに修繕できる箇所、また予算を計上し時間や費用がかかるもの等その必要感応じて順位づけを行い、適切に対処した。非構造部材の耐震工事が行い（体育館の電球の固定電球替えを含む）、トイレ等は清掃を他校より多く業者を入れることができた。トイレの修繕等は具合が悪いとすぐに対応したが、構造上修理のきかないところもある。学童建築のため校庭の一部が使えなかったが、新しい外トイレ等も整備された。